



空から見た近郊緑地特別保全地区

近郊緑地特別保全地区の将来像 (ゾーニング)

奥の山ゾーン

現在：緑地の中央にあり、林の遷移（成長）が進んで常緑樹や大木が多く、尾根が高い、奥深い雰囲気

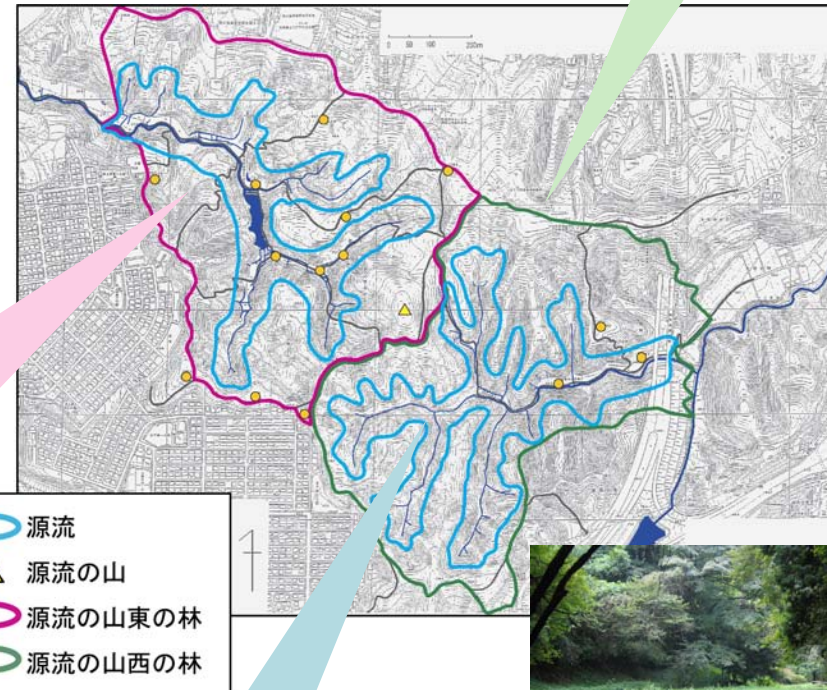
目標：緩い斜面および平らな尾根の常緑樹林と急斜面の落葉樹林を主体とし、一部に針葉樹林のある、横浜最大の緑地の中心に位置する、本来の自然に近い林を好む生物のすむ環境。



里の山ゾーン

現在：人の利用が多く、林が比較的若く、広い谷戸やため池のある里山環境

目標：様々な林齢の落葉樹林を主体とし、一部に混交林や、針葉樹林・竹林・草地などの様々なモザイク状の環境がある、里山の生物がすむ環境。

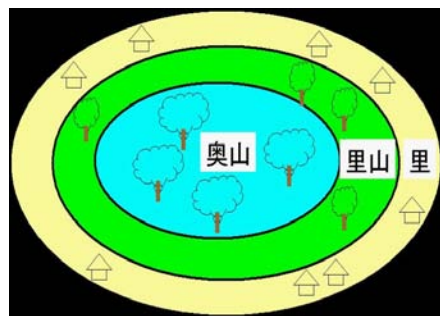


源流ゾーン

現在：きれいな川にすむ水生生物が多い、急斜面に囲まれた源流の沢と湿地性の植物や昆虫のいる草地

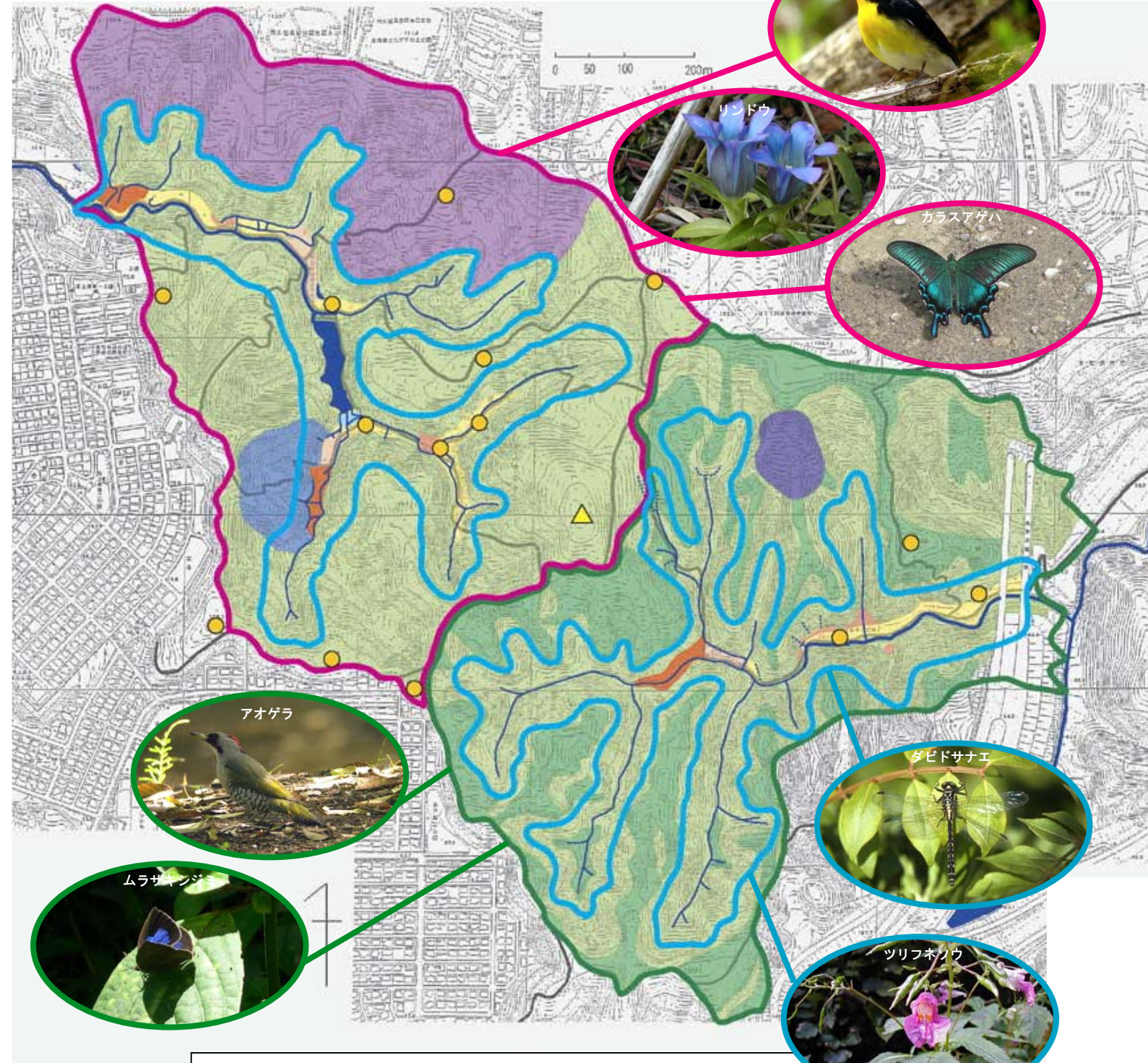
目標：奥の山ゾーンと里の山ゾーンの両ゾーンにある、2つの沢の源流の水域とその周囲の湿地および斜面林。水生生物や湿地性植物の生息場所水場もあり、動物が安心して利用できるよう、隠れ場（草丈の高い草・低木）が近くにある環境。

今よりも生物の多様性が高かった頃の林の配置（図）をモデルにします。



昔の林の配置イメージ

近郊緑地特別保全地区の将来像 (目標植生)



<目標植生>		<エリア>	
樹林	湿った草地	モザイクエリア	
常緑樹林	草丈の低い(20cm以下)草地		
落葉樹林	草丈の中位(20~100cm)の草地		
針葉樹林	草丈の高い(1m以上)草地		
混交林	その他の草地		
湿地性樹林			

<その他記号>	
▲ 源流の山	● 休憩所・広場
● 奥の山ゾーン	● 散策路
● 里の山ゾーン	■ 池
● 源流ゾーン	— 川・沢
	●●● 雨量が多い時に流れる沢

写真提供
伊澤 嘉典子
板垣 昭平
篠原 由紀子
松田 久司
横浜自然観察の森

この目標植生は、100年以上先の将来象です。